

100歳まで生きるための本100選

藤本 由貴 Yuki Fujimoto

金沢医科大学呼吸器内科学助教
✉ tachi-y@kanazawa-med.ac.jp

第77選

『かいじゅうたちのいるところ』

モーリス・センダック 著, じんぐうてるお 訳
(富山房, 40 ページ, 定価 1,400 円 + 税)

いわずとしれた有名なモーリス・センダックの絵本です。1963年に出版され、翌年コールデコット賞受賞、世界中で約2,000万部、日本では約100万部売れて、2010年にはスパイク・ジョーンズ監督によって実写長編映画化されています。

マックスはおおかみのぬいぐるみを着て遊びたい放題。イタズラの罰でお母さんに怒られて夕飯抜きで寝室に放り込まれてしまいます。そこからマックスの想像の世界に入っていきます。船で長旅にでかけ、かいじゅうたちのいるところで王様になります。見た目は怖いけど、愛嬌のあるかいじゅうたちと歌い踊り、興奮してひとしきり楽しんだら寂しくなって、船で長旅をして帰り着くと、そこは、いつもの寝室だった、まだあたたかい夕飯が置いてあった……というストーリーです。

文章が少ないので、ゆっくりと絵の世界を楽しめます。しかし、その分、行間に多くが語られている気がします。独特な挿絵でトーンも落ち着いていますが、

不思議な魅力があります。

子供の有り余る体力、探求心、心に溜まっているエネルギーを思う存分発散して、やっぱり最後に戻ってくるのは安心できるいつもの場所。この本を読んだ当初は、子どもとお母さんのお話だと思っていましたが、今では人生全部に当てはまるのではないかと感じています。長い人生で新しいことに取り組む機会はたくさんあります。入学、試験勉強、卒業、就職、結婚、子どもの誕生、転職、大事な人とお別れなど、その折々に、マックスのようにがむしゃらに取り組んで、楽しんでそしてさみしくなって次のステージに向けて温かい場所で英気を養う。そんなことの繰り返しが人生ではないでしょうか。

絵本では、マックスは暴れん坊のところしか表現されていませんが、温かい食事を用意してもらえる愛される側面がきっとあるのでしょう。また、かいじゅうたちを家来にし、王様となったマックスはカリスマ性もあるでしょう。さみしくなって家に帰りたくなるのも大切な人と信頼できるよい関係を築くことができているからだと思います。

私は外来診察でたくさんの患者さんにお会いすることがありますが、皆さんいろいろな悩みを抱えています。一医師が手助けできることは少なく、限られています。診察時間で楽しかったことを私に笑顔でお話してくれるときが一番好きです。治療により「元気になるって旅行してきたよ」とか、「家族でお正月やお盆